



の いる 風 景

岩下 雅子 さん



【いわした まさこ さん】 白樺

●平成19年4月から、千歳要約筆記サークル「やませみ」の代表を務める。

要約筆記で、人にやさしい まちを目指しています

耳の不自由な方、聴力に障がいを持つている方などに、さまざまな情報の要点をまとめながら文字に書いて伝える、要約筆記をご存じですか？

病气や事故などで、突然、聞こえなくなったり中途失聴の方、難聴で手話の使えない方などが必要としています。

岩下さんが要約筆記を始めたのは、「10年ほど前になりますが、広報と世を見ていたとき、要約筆記奉仕員養成講座の記事が目にとまりました。もともと、手話を少ししかじっていたこともあり、文字を書いて伝えることもやってみたくなったのがきっかけです」と話します。

平成13年頃は、市内で要約筆記の活動がなかったため、札幌市で養成講座を受講し、その後、札幌のサークルで、中途失聴の方や人工内耳の方などの集まりや説明会などで活動を始めたそうです。

「要約筆記は、早く、正しく、読みやすくを三原則にしています。講座では、講師が話す内容を聞いて、何を言いたいのか、要点をつまんで紙に書くのですが、最初は、要領がつかめず、話すこと全部を書いてしまったり、途中であきらめてしまうこともありました」と当時を振り返ります。

千歳要約筆記サークル「やませみ」は、平成19年4月に設立し、現在では、主婦・自営業・公務員の方など、11人（男1人、女10人）の会員で活動しています。

要約筆記者は、千歳市社会福祉協議会に登録されているので、必要なときは、社会福祉協議会に申し込みをすることで派遣されます。

現在は、市が開催する除雪・ごみ分別などの説明会や敬老会などで要約筆記を行っているとのこと。失敬もあるそうです。「社会福祉大会のとき、事前に原稿をパソコンに

入力してあったのですが、当日、一瞬にして、そのデータが消えてしまい、あわてて手書きで作成したことや、講演会するときなど、当日、講師の説明に熱が入りすぎ、事前に作成してあった資料と内容が違ったことなど、ハプニングの連続でした」と笑います。

要約筆記サークルでは、個人の方からの依頼も受け付けているそうです。中途失聴の方や難聴の方は、言葉を話すことは出来ませんが、聞くことがむずかしい方々です。

このような方が、例えば病院を受診するとき、小中学校の参観日や懇談会、研修会などに出席するとき、年金や健康保険などの手続きで市役所に行くときなど、同行して、お手伝いすることが出来ます。

「必要な方は、社会福祉協議会ホールディングス課 ☎252525 FAX2528までお問い合わせください」と話してくれました。